

令和5年度 第2回学校保健委員会報告

1 次 第

- (1) 児童保健委員会発表
- (2) はじめの言葉
- (3) 学校長挨拶
- (4) 講義 「赤十字救急法講習会」 日本赤十字社 埼玉県支部 指導員 様
- (5) おわりの言葉

2 児童保健委員会発表

今年度児童保健委員会では、「AED」をテーマに色々な取組を行っている。夏休み中に、家の周辺やよく行く場所の「どこに」「どんなふうに」AED が設置されているかを調べた。調べた結果で AED マップを作成し、校内に掲示予定である。

5, 6年生の保健の授業では、毎年救命救急の流れについて学習し、修了証をもらっている。その時の合言葉は、「119 番」「AED」「勇気」をプッシュであり、それぞれが自分にできることしようと学んでいる。

3 赤十字救急法講習会

「AED を使う機会は一生一回にあるかないか」などのお話を伺い、講師 6 名の指導の下、2 人一組で訓練の人形などを使い実技練習を行った。

< 演習内容 > ~心肺停止を想定した訓練~

- ① 周囲の観察 周囲は安全か確認する
- ② 全身の観察 大出血がないか確認する
- ③ 反応の確認 「もしもし、大丈夫ですか」などと声をかける
- ④ 協力者を求める 119 番通報と AED を依頼する
- ⑤ 呼吸の観察 10 秒以上かけず、胸とおなかを見て普段通りの呼吸があるか判断する
※コロナウイルスなどへの配慮として、傷病者と救助者の顔が近づきすぎないように、肘ではなく手を床や地面について距離を取り、傷病者の頭の斜め上から確認をする
- ⑥ 胸骨圧迫 「普段通りの呼吸がない」または「分からない」場合は、胸骨圧迫を行う
・「胸骨の下半分」(目安は胸の真ん中)を手掌基部で垂直に押し下げる
・圧迫の深さは「約5cm」
・圧迫の速さは「1 分あたり 100~120 回」
・圧迫は「強く・速く・絶え間なく」を意識する
・感染予防の点から、ハンカチタオルなどがあれば傷病者の鼻と口に被せる
- ⑦ 音声メッセージに従って AED を使う
 - ・電源を入れ、パットを貼る。パットの貼り方を間違えてしまっても貼り直さない(粘着力が下がってしまうため)
 - ・脱がしにくい服の場合は、はさみで胸から腹側に向けて切る
 - ・1 回目の電気ショックの後、再度心電図の解析が入るまで胸骨圧迫を続ける
 - ・協力者がいる場合は交代で行う
 - ・救急隊に取り次ぐまで続ける(救急車が来るまでは平均で 9 分)

